



読書のきっかけ

山田 司

昨年12月、本校で「弘前市小・中学生読書感想文コンクール」と「弘前市立図書館を使った調べる学習コンクール」で入賞した子供たちの表彰を行った。賞状をもらう子供たちの嬉しそうな顔を見てみると、作品を仕上げるまでの苦労や努力の様子が思い浮かび、賞をもらえて本当に良かったと感じる。子供たちの知的好奇心を高め、可能性を引き出す貴重な機会を毎年設けてくださっている弘前市立図書館の方々にお礼を申し上げたい。

子供の読書離れが進んでいると言われて久しい。それは本校も同様で、コンクールへ応募するため進んで読書する子供たちは限られていて、子供たちの多くは読書の機会がなかなか増えていない。そこで本校では司書教諭を中心に、様々な手立てを講じて子供たちへ読書をすすめている。朝読書や教室への図書

の常設、おすすめブックリストの活用、児童の図書委員会による読書啓発活動、教職員のおすすめの本紹介等である。嬉しいことに少しずつではあるが効果が現れ、子供たちが本に触れる機会が増え図書室の利用も伸びてきている。では学校を離れるとどうであろう。ある調査によると、子供たちが家庭で自由に使える時間が年々少なくなっているようだ。学校からの宿題や課題をこなし、さらに学習塾や文化・スポーツ等の習い事にも通う子供たちは、平日や休日も忙しい。また世の中には多様な情報メディアがあふれ、必要な情報は本以外から素早く簡単に得られるようになった。このような状況で子供たちへ読書をすすめるのは容易ではない。

ところで、我々大人は子供たちへどのような読書をすすめているだろうか。私自身を振り返ってみると、「本を読むことは良いことです。言葉も豊かになるし、いろいろな人の考え方にも触れることができる、かしこくなりますよ。」と子供たちへ伝えてきたことが多かった。日本で読書が良いこととされるのは近代以降であり、大正期に子供のための童話が書かれ、その頃から子供が自分で本を読むようになったそうである。さらに近年は、乳幼児期からの読み聞かせも盛んに行われているため、多くの子供たちは暗黙のうちに「本を読むことは良いことである」という認識が形成されていると言われている。

では「本を読むことは良いこと」以外に読書をすすめるきっかけはないのだろうか。子供が読書をするきっかけについて調査をし

た研究によると、子供の年齢が高くなるにつれ、「本を読むことは良いこと」ということから、「空想を膨らめたり自分の知りたい知識を得るため」、「余暇を楽しんだり気分転換を図るため」ということに変わってくる結果になったそうである。読書をするきっかけは、子供一人一人によって違い、様々なことが要因となっている可能性がある。確かに「本を読むことは良いこと」であり、子供自身にとって利益になることがたくさんあるのだが、それだけでは子供の読書するきっかけとしての限界があるようだ。自分なりのきっかけを認めて賞賛していくことや読書自体を目的とすることが、子供たちの読書に対する興味や関心を高めることにつながるかもしれない。ここまで筆を進めて、最近読書から離れてしまっている自分に気づいた。子供たちの前に自分を戒めることが先かもしれない。

(弘前市立大成小学校学校長)



上／読書感想文コンクールロビー展
下／調べる学習コンクール館内講座



● イベント実施報告 11月～2月 ●

〔岩木図書館〕1月15日

本の交換会

本との新しい出会いがありました



交換会の様子

岩木図書館開館40周年イベントとして、自分が読まなくなった本を持ち寄り、それと同等冊数の本を交換して持ち帰るという本の交換会を初めておこないました。会場に中央公

民館岩木館の大研修室をお借りし、子どもから大人まで合計28名の方の参加がありました。

連日の大雪にもかかわらず、参加された皆さんからは、会場に並べられた小説・雑誌・児童書・絵本など500冊以上の本を目の前に感嘆の声が。「雑誌を持ってきたもよかったんだ！」や「孫のためにもらってもいいのかしら?」と言いな

ら、会場を隅々までじっくりと見て気に入ったものを持ち帰っていました。自分の本を持ってきた子ども



本をじっくり選ぶ参加者

達も「これおもしろそう!」と楽しんでいるようでした。なかには、「どういう感じなのか気になって:」と覗きに来てくれた方もいました。のんびりとした雰囲気の中で行われた本の交換会。参加した皆さんそれぞれに本との新しい出会いがあったことを嬉しく思います。

〔弘前図書館〕11月19日、12月15日

おすすめの絵本作家展示

附属小児童が図書館にプレゼン



おなじみのキャラクターが集合

今回の弘前図書館の児童コーナーの展示では、弘前大学教育学部附属小学校5年生の皆さんにご協力いただきました。まずは世界的にも有名な2名の絵本作家、レオ・レオニ

とアーノルド・ローベル、どちらの作家がおすすめかというテーマで、それぞれの作家のチームに分かれて好きな絵本を発表していただきました。どちらのチームも、気合の入った発表でとても見応えがありました。

その後の当館職員による投票で、得票数が多



かったのはアーノルド・ローベル側のチームでしたが、レオ・レオニ側の発表もとても素晴らしく、最終的には両方の作家の本を展示しました。誰かを大切にするということはどういうことなのかを附属小の皆さんの発表を通して、改めて考えさせられました。ご協力いただきありがとうございました。



展示の様子

〔こども絵本の森〕12月12日

パパとじいじとえほんあそび

みんなで絵本のなかに入っちゃおう



講習会の様子

毎年開催している、

パパやおじいちゃん向けの読み聞かせ講習会『おおきなだっこでえほんのじかん、パパ!じいじ!これ読んで!』を今年よりリニューアル。より「一緒に絵本を楽しむ」ことに焦点を当て、『パ

パとじいじとえほんあそび』として開催しました。J P I C 読書アドバイザーである高嶋敬子



さんを講師にお迎えして、5組の親子の参加がありました。今回はエリック・カールの作品をメインに据え、みんなではらぺこあおむしになりきってこども絵本の森の中を探検したり、「できるかな？」の歌で動物になりきって体操をしたり楽しいひとときを過ごしました。

〈こども絵本の森〉12月22日～1月16日

冬休みおはなしクイズラリー

絵本の森でぬくぬく冬ごもり



クイズに取り組む参加者

毎年恒例の人気イベントを今年も開催しました。今年のテーマは「冬ごもり」。入口は大きなかまぐらに見立てて、ロッカーの中には思い思いに冬を過ごす動物たちの姿とクイズの問題を飾りました。イベントに初めて参加する子どもも、クイズを大得意とする常連の子どもも、ロッカーのドアを開けてのぞき込む後ろ姿は真剣そのものでした。新型コロナウイルスなどの影響もあり、参加者は例年より少なめでしたが、皆さん熱心にクイズに取り組んでくださいました。全問正解者には「おめでとうカード」と「オリジナルぬり絵」をプレゼント。子どもたちは笑顔で受け取っていました。

〈岩木図書館〉12月11日

おはなしクリスマス会

親子で過ごした楽しい時間



中央公民館での開催となった今回

今回は2組8名の親子が参加してくださいました。おはなしボランティア「テラーズ」の皆さんによる絵本の読み聞かせや手遊び・エプロンシアターなどバラエティーに富んだ演目がおこなわれ、子どもたちは演者の迫力満点の声に驚いたり、一緒にサンタさんを探したりと最後まで楽しんでいました。毎年恒例のクリスマスカードのプレゼントも好評でした。新型コロナウイルスのため定員を減らさざるを得ない状況となりましたが、次回もまたご期待いただけますと幸いです。

〈弘前図書館〉12月18日

クリスマスおはなし会

寒い冬に負けない暖かいお話をプレゼント！



迫真の演技に会場中が聞き入った

雪で足元の悪いなか、今年は21名の方が参加してくださいました。子どもたちはおはなしボランティア「おはなしるんるん」の皆さんによるエプロンシアターや紙芝居、大型絵本を真剣に聞き、手遊びも大きく体を動かしながら積

極的に参加していました。劇中で使用された人形や小道具は手が込んでおり、子どもたちは興味深々で触れていました。お土産の「飛び出すクリスマスカード」や「しおり」にも大満足な様子で、終演後は「楽しかった」などの声が寄せられました。

—お知らせ—

〈岩木図書館・こども絵本の森〉

3月の蔵書点検による休館のとりやめについて

例年3月に実施している岩木図書館とこども絵本の森の蔵書点検は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に係る臨時休館期間中（1月21日から3月6日）に終了いたしました。そのため、3月は蔵書点検による休館はせず、通常通り開館いたします。

移動図書館車「はとぶえ号」一部ステーションの巡回曜日と時間の変更について

令和4年4月より「松原（コープ松原店駐車場）」と「安原（マックスバリュ安原店駐車場）」の巡回曜日と時間に変更になります。初回巡回日はつぎのとおりです。

- ・「安原」 4月1日（金）13時40分～14時20分
- ・「松原」 4月6日（水）10時～10時50分





〈弘前図書館〉

ロビーから閲覧室まで見どころ満載

弘前図書館では毎月さまざまな展示をおこなっていますが、最も規模が大きい展示はロビーの展示です。時事的なテーマの展示やコンクール関係の展示などを入れ替わりでおこないます。世界的に著名な絵本作家の原画展もおこないました。ロビーの一角にあるパスファインダーコーナーは、調べる方法を紹介している調べものの強い味方。こぎん刺し、ねぶた、感染症など様々なテーマを取り扱っています。

閲覧室には図書除菌機があり、いつでも清潔な本を手にとることができる。インターネットで調べものをしたり、DVDの視聴ができる専用ブースもあります。また、「ひろさき社(まんじ)学」コーナーには小中学生が弘前の歴史や魅力について理解を深められるような、比較的やさしい内容の郷土資料を置いています。

2階と3階には学習室があります。館内ではWi-Fiが使用できるので、ノートパソコンを持ち込んでのご利用や情報検索にも便利です。



パスファインダーはチラシスタンドにまとめて設置。



ロビー展「桜色に染まる春」



図書除菌機。閲覧室入口付近にある。



ひろさき社学コーナー



DVD・インターネット専用ブース



2階学習室

〈岩木図書館〉

大人も子どもものんびりと過ごせる図書館

岩木図書館入口から入ってすぐ左手に3列の書棚があります。向かって左側はユースコーナー。中・高校生向けの小説や転職・就職関係の本が並んでいます。向かって中央は新刊コーナー。直近1年間に発行された新刊図書が10区分の分類ごとに順番に並んでいます。向かって右側は映像化された作品コーナーと話題の本コーナー。映画化やドラマ化された小説はまとめてここに置いています。

岩木図書館は時代小説の文庫本を豊富に取り揃えています。シリーズごとに分け、通し番号をつけているので探しやすいと利用者の方に好評です。奥にはミニ展示コーナーがあり、展示は毎月変わります。

児童室には新しい本コーナーや人気のシリーズコーナーがあります。室内には大きな座卓があり、絨毯を敷いているのでのんびりとした雰囲気勉強や読書ができます。



時代小説の文庫本コーナー。作家ごとにまとめてある。ブックリストも用意。



児童室にある人気本コーナー。おしりたんていシリーズや銭天堂シリーズなどがある。



毎回好評の特集展示コーナー



児童室



児童室にはパパママコーナーやブックスタートコーナー、赤ちゃん絵本コーナーがある。



図書館における

学校支援

図書館法第3条には、図書館が学校教育を援助するように留意するという規定があり、第9号には「学校、博物館、公民館、研究所等と緊密に連絡し、協力すること」とあります。学校教育を支援するサービスを提供することが公共図書館の役割として位置づけられており、弘前市立図書館でも様々な事業をおこなっています。

へ弘前図書館でおこなっている

学校支援サービス

学校図書館訪問事業

市内の小中学校に当館職員が訪問し、図書の分類表示や館内のレイアウト変更、本の修理などの学校図書館の支援をおこなっています。

特別貸出サービス

市内の学校向けに戦争、郷土に関する本など、学校の授業で習うテーマに関連する本を当館職員が選書し、100冊以内で3か月間貸し出しています。

読書団体への貸出

保育園や小学校、児童センターなどの団体向けに、300冊以内で90日間貸し出しています。

洋書絵本・洋書児童コーナーの設置

外国語教育の充実を目指す学習指導要領に則って、海外や国内で有名な洋書の絵本、日本の昔話や文化について理解を深めることができる日本語と英語で記された児童書などを置いています。

移動図書館車「はとぶえ号」の巡回

小学校や児童センターを含む市内24か所のステーションを回り、本の貸出と返却をおこなっています。

「弘前市小・中学生読書感想文コンクール」の開催

「市内の小・中学生に、もっと多くの読みものを、そして、読んだ感想を文章にまとめてほしい」という願いから昭和45年度の読書週間行事のひとつとして実施され、今年度で52回目を迎えました。

「弘前市立図書館を使った調べる学習コンクール」の開催

図書館の利用促進と調べる学習の普及を目的に、当館では平成30年度から開催。公共図書館や学校図書館を使って調べ、まとめた作品を募集しています。関連事業である館内講座や学校を訪問する出前講座では、本の分類の仕方やコンクールの作品の作り方などを当館職員が教えています。

見学・職場体験の受入

図書館や本に対する理解を深めてもらえるよう、書庫の見学や利用案内、カウンターでの貸出返却業務や本の排架、レファレンス体験などをおこなっています。夏には小学生を対象に「図書館のお仕事やってみ隊」というイベントを開催しています。



読書感想文コンクールロビー展



調べる学習コンクール出前講座



洋書絵本・洋書児童コーナー



職場体験

〈参考文献〉

- 『J-LA図書館情報学テキストシリーズⅡ 3 図書館サービス論』小田 光宏／編著 日本図書館協会 2010年
『講座・図書館情報学5 図書館サービス概論』山本 順一／監修 小黒 浩司／編著 ミネルヴァ書房 2018年



図書館ボランティア紹介⑩

津軽語りべの会

住吉 千代江さん
すみよし ちよえ

―所属団体、活動日(回数)などについて―

会員18名。毎月第3金曜日に情報交換、昔語り、わらべ歌学習を実施。4月から11月はりんご公園、土日祝日はJR列車リゾート白神で語っています。

―活動のおもしろさや楽しさ、やりがい―

子どもたちに昔からの津軽弁を残してあげたいです。津軽に伝わる昔話を聞き、感動している様子が見られた時うれしく思います。津軽弁の質問をされた時や、「日本昔話にも似た話があるよ」などと話が展開されるとやりがいを感じます。

―おすすめの本を1冊教えてください―

『ないたあかおに』

浜田 廣介／文 池田 龍雄／絵 偕成社 1965年

心のやさしい赤おには、村人となかよくしたいと、友だちの青おにはその願いをかなえてやろうと考えます。おにの世界にある友情のうるわしさを感動的に描いた、ひろすけ童話の代表作です。



―読者の方へメッセージ―

語りを聞く事で情景を頭で描き、それを契機に絵本や歴史をひもといてもらい、できれば大人も一緒に津軽弁でどうですか。



ボランティア募集①

閲覧室ボランティアを募集しています

土・日・祝日や
いつでも出来る方
大歓迎！

■ 活動内容

① 返却された図書の排架

返却図書を分類順に書架(本棚)に並べます。

② 書架整理

閲覧室にある図書の整理整頓をおこないます。

間違った場所に置かれている図書を正しい場所に戻したり、図書を見やすいようにきれいに揃えます。

③ お客様へのご案内

閲覧室で本のある場所が見つけれないお客様を所定の場所にご案内したり、図書館の使い方について簡単な説明をおこないます。

■ 活動場所 弘前市立弘前図書館

■ 活動日 図書館開館日

■ 活動時間 月に1回以上。1回あたり午前または午後2時間程度。

■ 問い合わせ先 弘前市立弘前図書館 電話：0172-32-3794



興味のある方はお気軽に図書館スタッフまでお声がけください



図書館スタッフが
おすすめする

BOOK REVIEW

この本が面白い!



『植物はそこまで知っている』

ダニエル・チャモヴィッツ／著
矢野 真千子／訳
河出書房新社 2013年



本書は植物がどんな風に世界を知覚して生きているのかという内容を、主にヒトの五感(味覚を除いた視覚、嗅覚、触覚、聴覚)と比較して解説しています。安易に植物を擬人化するのではなく、ヒトはヒト、植物は植物という風に「別々の生き物がどういう風に世界を知覚しているのかの違いと、意外な共通点」を知ることが出来ます。後半では、植物の平衡感覚や、記憶についても触れており、植物たちの不思議を感じられます。

『運転者』

喜多川 泰／著
ディスカヴァー・トゥエンティワン 2019年



みなさんは、自分は運がいいとか悪いとか考えたことはありますか? 主人公の岡田修一は仕事、不登校の娘、実家...どれも問題が山積み。「なんで俺ばかりこんな目に」とつぶやいてタクシーに乗り込むと、運転手は「運を転ずるのが仕事で、人生の転機になる場所へ連れて行く」と言います。そして運はポイント制で貯めて使うものだとも。物語を読み終える頃には、「ポイントを貯めよう!」と価値観が変わり前向きになれる一冊です。

『その扉をたたく音』

瀬尾 まいこ／著
集英社 2021年



ミュージシャンを志す、とは名ばかりで親からの仕送りに頼り、怠惰な生活を送る主人公。ある日、演奏に訪れた老人ホームで魂が震えるようなサクスの音色を耳にします。介護士の吹くそのサクスをもう一度聞きたい主人公は老人ホームに通り始めるのですが...。情性で夢を追う主人公が、一人の介護士との出会いを通して変わっていく。その過程は青臭いかもしれませんが胸を打ちます。誰かのために動くことの大切さが心に沁みます。

『ローカルおやつの本』

グラフィック社編集部／編
グラフィック社 2021年



日本全国津々浦々の、地元で愛されてきたご当地おやつを紹介する本です。レトロで懐かしい雰囲気、色とりどりのおやつが楽しめます。青森も南部せんべいやイギリスストーストなど、だれもが食べたことのある、おなじみのおやつが紹介されています。青森だけでなく、他県のおやつも「これおいしそう!」「これって〇〇県のお菓子だったんだ!」とさまざまな発見があります。みなさんの思い出の味を探してみてもいいかもしれませんか?

高橋 徹(たかはし とおる)

群馬県太田市出身。埼玉県朝霞市在住。愛知県立芸術大学卒業。サーカスパフォーマンスグループ「くるくるシルク」を結成。絵本作家としても活動。著書に『ねことコップ』、『おふろおふろ』など。



『しょうちゃんとあけっぱなしおぼけ』
高橋 徹／作・絵 絵本塾出版 2016年 ※左はサイン

発見! 著名人のサイン本
高橋 徹
平成30年9月8日に、こども絵本の森開館5周年記念イベント「絵本の森で遊ぼう!」にて署名。



お知らせ・図書館イベント等の情報

※都合により、変更になる場合がございます。

開催館・日時	イベント名	内容等
弘前図書館 3月13日(日) 13時～15時	ボランティア日体験	【定員】5名(要申込・先着順) ※定員に達している場合はご了承ください
3月19日(土) 13時～16時	弘前ライブラリーシネマ	【定員】25名(要申込・先着順) ※定員に達している場合はご了承ください 【上映予定作品】『アイネクライネナハトムジーク』

● ● 指定管理・いままでの5年間、これからの5年間 ● ●

平成29年度から始まった指定管理は、株式会社図書館流通センターを代表企業とする「TRC・アップルウェーブ・弘前ペンクラブ共同事業体」により進められてきました。市立図書館3館(弘前図書館・岩木図書館・こども絵本の森)を図書館流通センターが、郷土文学館を弘前ペンクラブが、そして両施設に係る広報活動業務をアップルウェーブが担うという分担です。

弘前図書館、岩木図書館ともにかなりの古い施設ではありますが、古い器の中に現代の新しい図書館機能を吹き込んで、弘前市民のための図書館サービスを展開していくというのが私たちの目指すところです。前者については、①デジタルサイネージ②書籍除菌機を設置③また館内でWi-Fiが使えるようにし、④インターネットでの情報検索や視聴覚資料の視聴も実現。後者では、①ロビー内での飲食や学習室での飲み物を可能にし、②貸出冊数の制限を撤廃。図書館利用券の発行条件も青森県内在住者であればどなたにでも発行③ロビーに飲料の自販機を設置し、④障がい者支援施設による毎週土曜日にパンの販売を行うなど長時間滞在者へも配慮しています⑤ほかに多彩な自主事業を多く開催しました。例えば「弘前市立図書館を使った調べる学習コンクール」、障がい者も楽しめるバリアフリー映画上映会。図書館コンサート、ビブリオバトル、ボードゲームで遊ぶ、市民講座、作家の講演会などここに書ききれないほどです。これらの催事により潜在的利用者の掘り起こしに貢献できたのではないかと自負しております。

さらに、この5年間にはこども絵本の森の開設5周年を記念して、絵本作家のパフォーマンスとコンサートを開催。岩木図書館開館40周年記念として市内のバックサークルとの協働で図書館用のトートバックを製作販売しました。

この後は、SNSでの情報発信や図書館ボランティア活動の拡充に努める等、弘前市民に愛され続ける「学びと遊びの創造の場、知の拠点」として、弘前市立図書館をさらに前進させることをお誓いいたします。

弘前市立図書館 館長 山谷英雄

弘前図書館 開館時間 平日 9:30～19:00 土日祝 9:30～17:00 休館日…毎月第3木曜日 年末年始 蔵書点検期間 電話 32-3794	岩木図書館 開館時間 平日 9:30～19:00 土日祝 9:30～17:00 休館日…毎週月曜日 年末年始 蔵書点検期間 電話 82-1651	こども絵本の森 開館時間 10:00～18:00 休館日…毎月第3木曜日 蔵書点検期間 電話 35-0155	相馬ライブラリー 開館時間 9:30～17:00 休館日…毎週水曜日 年末年始 蔵書点検期間 電話 84-2316
--	--	--	--

発行: 指定管理者 TRC・アップルウェーブ・弘前ペンクラブ共同事業体

